



公開された大般若経  
＝輪島市町野町東で

平時忠しのもので

「大般若経」公開

輪島・八幡寺

壇の浦の戦いで敗れた後、能登に流された  
平時忠の没後に記され、  
輪島市町野町東の

八幡寺で所蔵する「大般若経」が、八幡寺であった地元老人クラブの勉強会で公開された。

輪島市史や民俗研究家の西山郷史さん（珠洲市）によると、この大般若経は全六百巻のうち五百八十五巻が残る。時忠の没後十七年の一二〇六（元久三）

年、珠洲郡若山荘大谷（現在の珠洲市大谷町）に住んでいた平兼基の発願で書写が始まり、近隣の社僧らの協力により一二（建暦二年、町野の八幡宮に奉納されたとされる。一九六五年には県有形文

化財に指定された。

雁皮紙や黄楮紙ワカなど高級な紙に墨書されている。勉強会で講師を務めた西山さんは「時忠をはじめ、苦しんだ人々への思いを込めて記されたものではないか」と話していた。

（松瀬晴行）